

市民が創る読書の森・図書館

—— 公民協働の読書活動

・図書館経営をめざして——

茅野市図書館 牛山圭吾

—— りんどうの里 高原生涯学習都市茅野 ——

- ・長野県の中央 八ヶ岳山麓に開けた人口5万7千人の高原都市
- ・昭和63年「生涯学習都市宣言」 公民館活動や自主サークルによる個人の自己充実や自立、学びを楽しむ活動の展開
- ・特色(1)学校開放講座—— 施設と教育力の開放

年50講座 約2、500人受講

- (2)開かれた学校づくり—— 地域の高い資質や能力をもった専門家の導入
7000の児童・生徒が学ぶ

◇学ぶ楽しさ・生きる喜びを学ぶ

- (1)自己の充足と自立の生涯学習→学んだことを生かす生涯学習へ
- (2)インプットの生涯学習→アウトプットの生涯学習へ

《市民の意識調査から》 全市的に解決したいこと

三つの重点課題 「地域福祉」 「生活環境」 「教育課題」(子ども・家庭支援)

課題解決方法 ～生涯学習の成果をふまえて～

- (1)市民自らが地域の方々とお互いに力を合わせて解決する。
- (2)市民・民間と行政が一体(公民一体)となって、自らの知恵や技能、行動力を出し合って解決する「パートナーシップのまちづくり方式」で行う。
- (3)市民と行政が互いの学習成果や多様な情報を持ち寄って、一緒に共通認識の構築を行い、解決方法や役割を明確にした協働の姿勢で進めて行く。

市民・民間主導で、行政支援の立場のまちづくり

—— 読書の森づくり ——

1. 「読書の森 読りーむ in ちの」の誕生

- ・増え続ける教育問題、家庭や地域の育児力や教育力の低下、本や活字・ことば離れ
 - ・読書は生涯学習の主役で最も優れた学習方法
 - ・読書は豊かな感性や温かな心を育む
 - ・読書はことばの獲得とコミュニケーション力、人への信頼感を養う

《読書の力を生かして》

◇重点施策の三本柱の一つ「教育課題」(子ども・家庭支援)の解決として

→「乳幼児からのことばと心を育てる
読書活動の推進」を図る。

〈準備会〉平成11年2月 子育てや読書グループ、子ども会や育成会、子どもの読書に関心ある市民で出発。

〈正式発足〉平成12年7月2日

(目的)「読書活動を広く市民の力を集めて推進し、読書の楽しみや読書の力を活かすことによって、人づくり、まちづくりに寄与する」

〈組織〉 ①ファーストブックスタッフ部会 ②赤ちゃん絵本部会 ③保育園部会
④朝の読書・学校図書館部会 ⑤読み聞かせ実践部会 ⑥パネルシアター・
⑦紙芝居部会 ⑧ブックリスト部会 ⑨広報部会 ⑩ひじろの会(昔話)
⑪市役所 ⑫学校司書会部会 会員約180名

(活動) 絵本研究・読書講演会・地域親子読書会開催

(事務局) 教育委員会学習企画課・図書館 市民課・地域福祉推進課・こども家庭支援センターと協力支援

2. ファーストブックプレゼント開始

(1) 願い

新生児に絵本をプレゼントする活動

・絵本を仲立ちに親子が楽しいひとときを過ごすことによって、信頼の中で共にいる喜びと言葉の喜びを共感してほしいと願い 12年8月1日から実施

(2) 名称

ファーストブックには、赤ちゃん絵本と言う意味もあるが、人生で最初に出会う絵本、最初のプレゼント、すばらしいという意味もこめてファーストブックプレゼントと呼ぶことにした。

(3) 選書

会員、保育士、図書館職員に呼びかけ選定委員会を設置。ファーストブックだからこそ大人（作者・編集者・手渡す人・親）からの温かさや優しさが伝わり、幸福感と生きる喜びが、赤ちゃんの中に育まれる楽しくて質の高い絵本を親子に贈ることを心に誓って選定。

まず図書館が選定用赤ちゃんの絵本200冊用意。①製作態度と子どもの発達②絵③文④造本の4つの観点から選定。赤ちゃんの認識を助ける①どうぶつ②たべもの③のりもの④いろ⑤かたち⑥自然。赤ちゃんの生活環境を描いた⑦遊び⑧生活⑨家族。感覚を育てる⑩音やリズムのジャンルのの中から最終的に30冊選定。贈られる人の選択の自由を保障するために多くの絵本を用意した。

(4) 対象

茅野市役所に出生届を出した新生児及び本籍が茅野市にある新生児全員

(5) 方法

《1冊目の絵本プレゼント》

〈予告〉

地域福祉課窓口での母子手帳交付時及び保健士さんの家庭訪問時に絵本プレゼントの予告。ファーストブック30リスト、おなかの中の赤ちゃんと家族へのおはなし会案内等配布。

見本の絵本は、図書館、図書館分室、市民館図書室、こども館、市民課、学習企画課、家庭教育センター、小児科・産婦人科医院に配置

〈方法〉 市役所の市民課の窓口に出生届を出した時にファーストブックセレクト5の中から希望の絵本1冊プレゼント。4カ月健診時に更に1冊プレゼントする予告と希望図書を記入したハガキの投函依頼。事務局で絵本を、会員が手作りの袋を用意。

《2冊目の絵本プレゼント》

〈対象〉 健康管理センターでの4カ月健診の赤ちゃんに。

- ・97%の高い受診率でほとんどの親子に直接言葉がけができる。
- ・早い時期に絵本の大切さ、言葉獲得の重要さ、わらべうたの必要性を知っていただくことは今後の子育てに参考になる。赤ちゃんがまだあまり動き回らないのでお母さんが安心して話が聞ける。子育ての先輩との心の結びつきの機会になる等の理由で4カ月健診時に2冊目の絵本をプレゼントすることにした。

〈方法〉 ファーストブックスタッフを中心に学習企画係と図書館職員がサポートし、訪れた親子毎に選んだ絵本の読み聞かせや子どもの成長に果たす絵本の役割等のことばを添えて絵本と共に心をプレゼント。

〈資料〉 新しいお祝いのメッセージ、012おはなし会案内（図書館）、こども館案内、図書館利用案内、赤ちゃん用利用カード申し込み書等。健診までにはがきが投函できなかった方は、後日図書館にてプレゼントしている。

3. 多彩なフォローアップ活動

絵本のプレゼントと共に大切な活動がフォローアップ活動である。図書館をはじめ市内の子育て支援施設で、市民と行政がパートナーを組んで実践している。

- (1) 赤ちゃん絵本コーナー充実 新サービス開始
- ・絵本コーナーと隣接して赤ちゃん絵本コーナーを新設し絵本を充実
 - ・特にファーストブック30は常備（選書の参考に）
 - ・質の高いおもちゃも同時に配置
 - ・11分室、こども館でもファーストブック30を中心に絵本を充実
- (2) 012おはなし会（図書館・こども館・地区こども館・家庭教育センター）
- （対象）012才児 （日時）本館 毎週土曜日 午前10:30～ 他館 月1回
- （語り手）読書ボランティア・図書館職員
- （内容）わらべ唄 手遊び 赤ちゃん絵本の読み聞かせ 本の紹介
- (3) おなかの中の赤ちゃんとは家族へのおはなし会（図書館）
- （対象）おなかの中の赤ちゃんとは家族 （日時）第1土曜日 午後13:00～
- （会場）図書館 一部産婦人科
- （語り手）読書ボランティア（赤ちゃん絵本の会）
- （内容）わらべ唄 手遊び 赤ちゃん絵本の読み聞かせ 絵本ブックトーク 絵本トーク 絵本の選書
- (4) おはなしわーど・おはなし会（3歳以上）（図書館・分室）
- （対象）3歳以上の子どもと家族 （日時）毎週土曜日 午前11時～
- （会場）図書館 分室・地区こども館 家庭教育センター
- （語り手）読書ボランティアと図書館職員
- （内容）わらべ唄 手遊び 絵本の読み聞かせ等 毎回語りをメニューに取り入れている。
- (5) 紙芝居だいすき！（図書館）
- （対象）こども～大人 （日時）第2土曜日 午後13:00～
- （会場）図書館
- （演技手）紙芝居を楽しむ会員（図書館員を含む） 富士見・原・諏訪からも
- （内容）紙芝居の実演
- (6) ゆうがくさろん（図書館・地区こども館）
- （対象）こども～大人 （日時）第2土曜日 午後13:00～ 分室 随時
- （会場）図書館・図書館分室／地区こども館
- （内容）遊び・学びを含んだ体験講座 工作・料理・折り紙・切り絵など
- (7) 絵本原画展（図書館）
- 原画のすばらしさと絵本について知っていただくために開催。特に子どもの体験を重視して親しみやすい作品を選んだ。
- ・12年 さとうわきこ絵本原画展
 - ・13年 いわむらかずお14匹絵本原画展
 - ・14年 薮内正幸動物・野鳥原画展
 - ・15年 〃 パートII
 - ・16年 こぐまちゃん絵本原画展
 - ・平山和子絵本・落ち葉の絵原画展
 - ・17年 さとう わきこ絵本原画展
 - ・18年 今森光彦写真絵本原画点
- （中学校読書講座 “作家が学校訪問”）
- (8) 読み聞かせの学校
- 「絵本をいただいたのに読み方がわからない」との声があったので、ボランティア養成も兼ねて昼間と夜の2コース設けている。年間を通じて月1回の学習会を開催。多くのボランティアが誕生した。プレゼントスタッフも増員に。
- 16年度から大人を対象とした読み聞かせの学校も開催
- (9) ヤングアダルト講座と中高校生読書ボランティアが活動開始
- ・図書館及びこども館に来る小さい子のためにボランティア活動を開始
 - ・基礎研修として「読み聞かせの方法」の講座開講
 - ・図書館まつり、読み聞かせフェスタで実演。保育園等でも実践好評
- (10) ブックスタート in ちの 15/1/24
- まとめと松居直先生の今後の活動の基調講演 県内外から270人の参加者

4. 駅前・10地区にこども館オープン

<駅前にこども館オープン>

- ・駅前空洞化したビルを買い取り、平成14年1月15日にこども館をオープン
- ・今まで居場所の少なかった0123歳の赤ちゃんと中高校生を対象にした施設
- ・子育て、子育て応援プラン「どんぐりプラン」の具現の一つとして
- 〈0123ひろばの創設〉

遊びと交流の広場

子どもが遊び、子ども・親同士が交流し合う場。質の高いおもちゃや体を動かしながら遊べる遊具を配置し、雨や雪の日でも思い切って遊べる。

絵本コーナー

フロアの中央に設け、ファーストブック30をはじめ、子どもの成長に望ましい赤ちゃんの絵本を常備。施設・設備及び選書・装備はファーストブックスタッフ・赤ちゃん絵本部会・保育部会及び図書館員が行った。子どもの目線で絵本が見られる高さの書棚、表紙が見られる配架にも考慮。読み聞かせ・紙芝居なども開催。現在は運営委員も担当。

将来は、蔵書を増やし貸し出し機能を持った赤ちゃん絵本図書館にしたい。

＜地区こども館10か所にオープン＞

- ・市内の地区センター内に設置されている図書館分室を拠点として、子どもの居場所としてこども館を15年4月オープン。図書館分室新設3館
- ・運営は全て市民主導行政支援の推進委員会・運営委員会によって行われている。子ども達の運営委員会も設けられ行事等も自主的に開催されている。
- ・子どもから高齢者までの交流の場所になってきた。

5. 広がる読書活動の輪

(1) 保育園・学校を変える「朝の絵本の時間」と「朝の読書」

- ・9年に中学校で「朝の読書」を、保育園で「朝の読み聞かせ」を開始
- ・茅野市内全保育園／小学校／中学校／高等学校で朝の読書を実践。一日が楽しい読書、静かな時間からスタートしている。
- ・各校各園に図書館ボランティアが結成され、朝の読書／2校時休み、読書週間などに学校保育園に出かけ読み聞かせを実施。
- ・男性会員による図書館の装飾や施設用品の改修による環境整備も実施。
- ・学社融合の読書指導や学び方学習の模索も始まった。（教員・学校司書・読書アドバイザー・読書ボランティア）
- ・保育園では、朝や帰りに保護者と保育士の合同読み聞かせが行われている。

(2) 全市内で読み聞かせフェスタ2002～05

- ・市内7～12会場（小学校・中学校・保育園・地区センター等）で読み聞かせフェスタ
- ・読み聞かせ／語り／ブックトーク／紙芝居／パネルシアター／人形劇／講演会／アイスキャンデル作り／リース作り／絵本の展示作り／読書クイズ／アニメーション／折り紙など内容豊富。
- ・大人のみで無く、子ども達（小学生～高校生）の出演も多くなってきた。
- ・0歳から100歳まで一緒に楽しい集いで地域の文化祭となってきた。

(3) 小・中・高校で市民参加の読み聞かせ 13／

- ・大学の先生や学生、他校の学校司書や司書教諭、図書館司書、読書ボランティア、主婦などが読み聞かせや紙芝居・ブックトークなどを実施。
- ・保育の授業でも支援開始 読み聞かせ

(4) 民話と絵本美術館を訪ねるバスツアー 14／9. 14

- ・茅野市は、民話と美術館の宝庫。現地では古老や会員の昔話に耳を傾ける。
- ・温泉や寺院、里山巡りも加えたコースで好評。心身ともにリフレッシュ。

(5) 月夜のおはなし会 14／7. 5 11. 22～

- ・季節毎に月夜を選んでお話し会が開かれる。会場は、博物館、公民館、寺院や神社、野外音楽堂などさまざま。読み聞かせや紙芝居に加えてオカリナ・コカリナ・琴・ハーモニカ演奏／童謡・コーラスなども登場プログラムメニューも豊富。時にはお坊さんのお説教も。交流の輪も広がる。
- ・協働により生活圏での読書活動が芽生えてきた。

(6)男性ボランティア「茅野ひょうしぎの会」 15/3

- ・男性のみの紙芝居を楽しむ会が誕生。図書館で実演を行うまでに成長。男性の低音を生かした夏の夜の「こわい話」好評
- ・女性も加わった紙芝居を楽しむ会に発展 毎月第二土曜日に定例実演会も

(7)大人への読み聞かせ「回想（想い出）読書講座」 14/10

- ・高齢者や病院、福祉施設から読み聞かせや朗読の要請が多くなってきたので大人向け読み聞かせの学校を開催 ・卒業生病院、福祉施で活躍
- ・脳の活性化事業とタイアップの方向

6. 新1年生に

セカンドブックプレゼント開始 17/4

〈願い〉乳幼児期に蒔かれた読書への興味を、学齢期に繋ぎ、家庭に読書をねづかせたい。

〈手順〉・入学式にセカンドブックリスト渡しと見本の展示

- ・親子でセカンドブックリストから本を選択・注文
- ・メッセージ、袋、本の用意などの準備は読リーむinちのメンバーが行う
- ・市民、メンバー、教育関係者等が連携して参観日等に1年生に本を手渡す。
- ・担任、読書ボランティアなどが読み聞かせ等のフォローアップ活動を展開

読書活動を支える市民たち

- | | | |
|--------------------|------|---------------|
| ①母子読書15分間運動 | 36年～ | (子どもたち) |
| ②家庭文庫 | 49年～ | (運営者・親・子どもたち) |
| ③ちの子どもの本の会 | 53年～ | (会員) |
| ④保育園・学校の読書活動 | | (先生・子どもたち) |
| ⑤他地域での文化活動にふれてきた方々 | | (大人) |
| ⑥生涯学習で学んだ人々 | | (大人) |
| ⑦読書の森 読リーむinちの | | (会員・子ども) |

7. ちの 子ども読書の森づくりプラン制定

茅野市子ども読書活動推進計画

18/4/1 制定

〈性格〉たくましく・やさしい・夢のある子どもの育成

「ことばとところを育てる読書活動」の推進

〈目的〉茅野市の子どもがさまざまな機会と場所で“耳からの読書”を大切に本と出会い、感動を覚え、読む楽しさや知る喜びを体験できるよう読書環境の整備と自主的な読書活動を総合的に支援・推進

〈対象〉0歳～18歳

〈期間〉前期 18～20 後期 21～23 6か年

〈重点施策〉

- ・家庭での読書のすすめ（ブックプレゼント／朝の読書等）
- ・子ども読書活動推進連絡会開催
- ・子ども読書活動応援センター開設
- ・3歳児絵本文庫設置
- ・調べ学習の推進（調べ方・まとめ方コンクール）
- ・司書教諭の全校配置
- ・中／高校読書講座
- ・読書活動ボランティアの育成
- ・学校図書館との連携
- ・地区コミュニティ活動での読書活動

8. 子ども読書活動応援センターのオープン

〈開設〉18年4月23日「子ども読書の日」に市図書館内に開設した。

〈職員〉センター長1名（教育次長・学習企画課長兼務）

読書活動推進サポーター2名（専任1名／読リーむinちの事務長兼務1名） 今後協力員を検討

〈目的〉子ども読書に係わる相談、研修、アドバイス、学校図書館の支援等読書活動を総合的にサポートするセンター

1. 新市民会館に図書館機能の設置を提言

11/12/24

〈本館機能を持った市民会館の建設を〉

- ・ゆとりある空間を持つ明るく開放的な図書館 くつろぎ・ふれあい
- ・すべての市民が気軽に立ち寄れる図書館
- ・子どもサービスの充実の図書館
- ・学習や研究のできる図書館
- ・情報化時代に対応した図書館
- ・資料群と市民が利用する場を総合化した文化会館に

◎提言を契機に図書館関係者が「茅野市の地域文化を創る会」の策定委員に加わり新市民館の基本構想・基本計画を策定した。

2. 茅野市明日の図書館を創る会発足 13/6/28

〈20年の歴史を迎えた茅野市図書館の新時代に対応する図書館基本構想の策定』『あすの図書館を創る会』結成と『図書館協議委員の公募』

- ・図書館について自由に語る会を設ける。・公募。委員27名。

○検討事項

- ①現図書館の現状と課題 ②茅野市図書館基本構想策定について
- ③新市民館の図書館分室基本計画策定 ④現本館の改築構想策定

○委員・図書館協議委員・読み一むいんちの代表・子育ての親・公募委員

○要望・本館について施設・設備・資料／情報源の整備・図書館サービスの改善／人的資源の整備

3. 市民とともに創る図書館めざして 茅野市図書館基本計画策定委員に中学・ 高校生も参加 14/6/24

〈図書館新基本構想・基本計画策定委員会発足〉

情報・生涯学習時代に相応しい市民図書館の在り方と隣接する美術館移動後の図書館としてのあと利用を検討する委員会を設け市長に答申する。

○委員は、市民のニーズを取り入れるために幅広い層から選出した。

・公募の委員2名（図書館常時利用者・大学非常勤講師）、ビジネスマン、読み一むいんちの代表、園長、小学校長、学校司書教諭、学校司書、高校副校長、大学教官、子育て関係者、医師（小児科）、PTA役員、子ども館関係者、一般利用者、別荘在住者、中学生（2名）、高校生（3名）等22名で構成。

○策定に新QC法を取り入れ『まちづくり』の進め方を学びながらまとめる。

○図書館やニーズを知るための講演会（11年～15年）

- | | |
|-----------------|----------------------|
| ①生涯学習と図書館 | 小川 俊彦（前市川市図書館長） |
| ②まちづくりと読書活動 | 竹内 紀吉（元浦安市図書館長） |
| ③生涯学習と子どもの読書活動 | 瀬戸 真（元読書館・図書館の学校理事長） |
| ④マーケティングと図書館作り | 大橋 照枝（麗澤大学教授） |
| ⑤ビジネス支援 | 常世田 良（前浦安市図書館長） |
| ⑥図書館を遊ぶ | 渡部 幹雄（愛知川町図書館長） |
| ⑦わがまちの図書館 | 財津原 哲弘（能登川町図書館長） |
| ⑧学校図書館とのネットワーク化 | 鴫田 道雄（前袖ヶ浦市読書センター講師） |
| ⑨読書ボランティア活動 | 村上 淳子（常葉学園大学講師） |
| ⑩新QCを学ぶ | 立岩 豊（セイコーエプソン） |

○他の図書館を知る（図書館視察）

- | | | |
|---------|----------|----------|
| ①大田市図書館 | ②下諏訪町図書館 | ③富士見町図書館 |
| ④原村図書館 | ⑤諏訪市図書館 | ⑥岡谷市図書館 |

- ⑦大泉村図書館 ⑧櫛形町(南アルプス市)図書館 ⑨市川市図書館
- ⑩浦安市図書館 ⑪愛知川町図書館 ⑫能登川町図書館
- ⑬仙台メディアパーク ⑭福岡市図書館 ⑮伊万里市図書館
- ⑯袖ヶ浦市学校図書館 ⑰常葉学園大学図書館 ⑱三番町小学校図書館

○文献・資料に学ぶ(主なもの)

- ①情報基盤としての図書館(根本彰 勁草書房)
- ②これからの図書館(大串夏身 青弓社) ③われらの図書館(前川恒雄 勁草書房)
- ④未来をつくる図書館(菅谷明子 岩波書店)
- ⑤浦安図書館にできること(常世田良勁草書房) など20種類余

4. 知の(森)創造図書館基本構想提言 16.7.6/16.11.5

〈諮問事項〉 ①美術館移転後建物を図書館としてどのように利用するか

- ②諏訪地域における茅野市図書館の位置付けは
- ③茅野市の全体の図書館計画はどうしたらよいか
- ④図書の新規寄贈についての考え方

〈中間答申〉

◎茅野市図書館のあるべき姿

- 1. 民主主義を育成し、守るための情報拠点
 - (1)民主主義を育成し、守るための情報拠点である。
 - (2)情報についてすべてを扱うべき場所である。
- 2. 公共施設としての図書館
 - (1)どんな市民でも集える楽しい場所
 - (2)仕事や生活に役に立つ情報が手に入る場所
 - (3)地域のシンボル・心のよりどころ

◎現図書館の改良と美術館移転後の利用にあたって、その建物、設備についての具体的な方策の提案

安全／飲食・雑談／駐車場／書庫／カウンター／ビデオ?・DVD／
児童コーナー／勉強スペース／インターネット端末／エレベーター等

〈二次答申〉

◎諏訪地域における茅野市図書館の位置付け

- (1)他館と協力・連携し、諏訪地域の歴史文化資料を収集・保管整理・提供する。
- (2)茅野市図書館の特色を出す。
ハヶ岳／縄文文化／山浦文化／別荘／登山／ビジネス／工業／保健医療／子どもなど

◎茅野市図書館の全体計画 棲み分けする

- ・本館 中央図書館機能 情報拠点
- ・市民館図書室 コンビニ的図書館 芸術関連資料
- ・こども館 幼児・母親対象
- ・図書館分室とこども館 本のある広場／地域交流の場所

◎図書の寄贈 委員会の設置

◎図書の選書

委員会を設置して市民の意見を反映する。

茅野市図書館運営委員会(仮称)の設置により市民が創造する図書館へ

5. 知の(森)創造図書館へリニューアル 17.7.23

- ・21世紀にふさわしい知的活動の拠点としての図書館が、17年7月23日にリニューアルオープンした。
- ・7月17日には茅野市民館内に芸術関係の資料の多い市民館図書室がオープン
- ・6月1日には諏訪中央病院内に図書室がオープン
- ・本館、市民館図書室、分室(10か所)完成により、市民は年末年始の休日を除き360日図書館を利用できるようになった。

6. 学校図書館とのネットワーク化 15. 8. 26

- ・諏訪広域図書館ネットワーク開始(7. 4. 1) 7図書館間の相互貸借開始
同時に7分室とのネットワーク開始
- ・市内全小・中学校に学校司書配置(13. 4. 1)以前5校
- ・県下初の司書教諭発令(14. 12. 1)12学級以下も
- ・学校図書館とのネットワーク開始(15. 8. 26) 情報・物流(宅配便)
(市図書館と学校図書館の本全冊が利用可能に)

7. どんぐり図書室サポーター活動開始 18.1.27

- ・楽しく、使いやすいどんぐり図書室を公民協働で創るサポーター発足
- ・中学生から高齢者まで 公募33名
- 〈予想される活動〉 自主的に (お好きな時に・お好きな事を)
本の返却/本の整理/本のカバーがけ/図書室のレイアウト/本選びのお手
伝い/読み聞かせ/紙芝居/子どもの相手/本の選書/運営一般
- 〈ミニ講座〉 サポーター限定講座
赤ちゃんに絵本がなぜ必要/本はどう分けるの/読み聞かせ・紙芝居やって
トライ/孫と一緒に民話ツアーなどサポーターの要望で (自主企画で)

14. 茅野市図書館実施計画(5か年)検討 18.4

- ◎基本姿勢「個人の可能性を伸ばす茅野市図書館」
- サブタイトル「個人が伸びると地域も伸びる活性化する」
茅野市図書館の5年後のイメージ
《5年後茅野市図書館は、市民から次のように思われているようになりたい》
 1. 図書館が変わった。
 2. 図書館は、単に本を借りるだけでなく、生活にも、仕事にも役立つ場所だ。
 3. 生活や仕事で分からないことがあったらまず図書館に行って調べよう。
- ・策定委員会を運営委員会に発展させ新しい図書館を創造させていく。

子どもが、そして大人が読書するまち 暮らしの中に図書館のあるまちに 未来の光り輝く

《生涯学習・生涯読書都市をめざして》

茅野市は、市民とパートナーを組んでファーストブックやセカンドブックプレゼント、朝の読み聞かせや朝の読書、図書館や博物館での昔話の語り、お話し、読書の学校などの図書館サービスを実施している。

7年から諏訪地域の7公共図書館とのネットワーク化が始まった。更に13年度からは、全小中学校図書館とのネットワークも完成し、図書館サービスが充実しつつある。

市民と協働で図書館基本構想・実施計画を策定し、新市民館図書室や地区センター内の図書館分室も4分室新たに開設され11分室になった。更に、本館も昨年リニューアルされ新しい時代に対応する図書館経営が始まった。

子ども読書活動推進計画も4月に策定し、読書活動・図書館活動・保育園・学校図書館を応援する読書活動応援センターも設立し、新しい読書活動が開始された。

今後は、全市民による公民協働のパートナーシップの読書活動や学習活動の推進・図書館経営・まちづくりをすすめたい。

茅野市の図書館経営や読書活動の実践計画をパートナーシップで創り上げ、市民一人一人が知恵や読書の種を蒔き、木に育て、やがて林に、そして、茅野市に豊かな知恵と読書の森・知の森を創り、未来の光輝くまちづくりをすすめていきたい。